

令和3年12月10日発行
No.365

Shining

シャイニング

発行元：社会福祉法人 拓く
TEL 0942-27-2039
FAX 0942-27-2086
<http://h-polepole.com>

ぽれぽれまつ ころよせあいまらい ポレポレ祭り～心を寄せあい未来にそなえよう～part2

今年のポレポレ祭りは、オンラインで開催することを8月に決定。本格的に準備が始まったのは9月に入ってからでした。

YouTubeによるオンライン生配信です。機材も必要となり、当日の配信を業者に依頼したのが9月下旬。視聴者が楽しめるような動画にするために、自分たちで事前撮りができるものは録画しておくことが必須となり、そこからの準備は加速。録画も編集も今までは誰かに頼っていましたが、「自分でするしかない!!」。多くのスタッフがスマホやパソコンに向かい、慣れない中、底力を発揮しました。この準備段階において多くの方々と協力し、共に同じ時間を過ごしながら積み上げたことが、今回の祭りのテーマ「心を寄せあい未来にそなえよう」そのままの時間だったように思います。



今回の祭りは、オンライン開催によって、拓くが日頃から関わっている拠点の皆さんをつなぎ動画で配信しましたので、私たちの取り組みを知っていただく良い機会になったと思います。祭り当日、ポレポレ会場では、初代理事長の櫻木先生や創設時に尽力いただいた教員の方々がお見えになり声をかけていただき、久しぶりの再会に笑顔が溢れました。元祖たこ焼き部隊である保護者の皆さんの手によるたこ焼きも、ふっくらしていて本当に美味しかったです。



ポレポレ20年の歴史を継承しながら、これからの未来に備える。拓くは、障がい者も地域で暮らし続けられるように、多くの人たちと心を寄せあい、力を合わせていきたいと思っています。ご協力いただきました皆さま、本当に有り難うございました。

(統括本部長 北岡 さとみ)

ぽれぽれまつ さとがえ ポレポレ祭りで里帰り



今年も東北よりコーヒータム様、あさがお様、熊本のたんぽぽハウスの皆さんに、ポレポレ祭りに参加していただきました。事前オンラインでの打ち合わせはまさに総選挙。

当日は進行役として堀田聡子さんがタイムキーパー並びに進行を見事に取りまとめてくださりました。

じじっかの2名は、自分自身のことをオープンに話しながらも現在の活動を続けている理由を説明。

東北・熊本の3名の方は、震災経験してから現在に至るまでの経過や現在行っている活動、また未来に向けての計画について不安な気持ちとワクワク感を織り交ぜながら紹介していただきました。

皆さんに共通していたのは「笑顔・笑い」。皆さんの活力源は、やはり「笑顔」でした。

また、当日オンラインに登壇されない方は、じじっかで一人親世帯の方と交わりながら一緒にお昼ご飯を作ってランチ会。熊本名物の団子汁が東北の方々に大好評でおかわりされた方も！

一緒に作ることで親近感を持つことに繋がり、初対面とは思えない楽しい時間を過ごすことができました。離れていても、オンラインで繋がることができる今の時代。遠くにいても心は近くに。また、次回会える日が今から楽しみです。

(スタッフ 福井 尚子)



ふっかつ ゆめききゅうこんさーと 復活！夢気球コンサート

2022年11月開催予定

今回の祭りでは、夢気球コンサートを担当させて頂きました。来年の完全復活を目指し、バンドの武末先生ともやり取りを重ねて少しずつ準備を積み上げていきました。久留米大学の松田研究室のご協力のもと、会場には「模擬法廷室」をお借りしました。

今回は堀先生・大山先生とアコースティックでの演奏となりました。お三方の透き通るようなコーラスワークは変わらず健在で、それぞれの声の力がより前面に出ているのではないかと思います。夢気球コンサートは2007年に一度その幕を閉じています。あれから14年という長いブランクをまるで感じさせない、素晴らしいステージだったと思います。時は流れ、リアルタイムでコンサートを体験した世代も成長しました。バンド結成35周年を迎える2022年、次の世代に、夢気球コンサートが持っていた優しさや温かさを伝えられるよう、一丸となって頑張っていきたいと思っています。

(スタッフ 姫野 健太)

ま く みいまち 混ぜいあう暮らし御井町にようこそ

まったく無縁のオンライン、それも担当時間20分という短い時間で街の魅力や私たちの活動をどれだけ伝えられるのか、とても不安に思っていました。古賀 円さんや若い人たちの力を借りて、私たちの伝えたかったこと、「混ぜいあう暮らし」は伝えることができたと思っています。



この10年間コツコツとつながってきた地域での活動は思うようにできなくなり、今回のお祭りにも不安の声がありました。事前のPCR検査の実施のおかげで安心して当日を迎えることができました。当日は広い神社の境内でお天気にも恵まれ、子どもから高齢者まで障害がある人もない人も世代を超えて60人を超える地域の人が集いました。あちこちで密を避けながら話し込んだり笑いあったり久しぶりの集いにみんな有意義な時間を過ごすことができ、うれしく思いました。苦手なオンラインのおかげで新しいつながりもできました。また、映像には映っていませんでしたが、若いお父さんやお母さん、若い人たちが積極的に参加してくれたことで、私たちの活動が引き継がれていくのではないかと希望が持てる集いとなりました。



(スタッフ 森田 さかえ)

たいけんがた やまもとえくすぺりえんす 体験型のまちづくり 山本エクスぺリエンス



「体験型のまちづくり」と題して、山本町エリアではじまっている「山本エクスぺリエンス」の取り組みを15分で紹介しました。

山本町は安武町から車で30分。市街から離れたところに位置し、耳納連山のふもとにある田畑や森林が豊富なエリア。しかし、安武町と同様に自立した観光資源もなく、人口が伸び辛く、耕作放棄地や空き家も課題になっている地域です。

そんな山本エリアを活性化する取組みが「山本エクスぺリエンス」。山本エリアに関わる企業や団体が集まり（ぷらっと、山本）、「耕作放棄地⇒市民農園」、「空き家⇒DIY研修・

オープンスペース」、「荒れた森⇒キャンプ場・子どもの遊び場」など地域の人、様々な人が協働し、「体験できる資源」に変えている取組みがはじまっています。

みなさんが「子どもたちが自然で遊べる」「子どもたちの考える力を養うキャンプができる」「景色が美しい農園で汗をかき、リラックス・健康づくりもできる」「空き家を復活させることで生きたDIYスキルを身に付けられる」など…ワクワクしながら活動されている姿を見ると、地域課題も視点を変えれば大切な資源になっています。

「どうしたらまちを元気にできるのか!?」同じ命題を抱える拓くも会議・活動に参加させていただいています。メンバーも一緒に草刈り、資材を運ぶなどの活動も一緒に行っています。手作りでもちを拓いていくことの学びはこれからもたくさんあるのではないかと感じています。山本エリアを活性化したいと、心をよせあい、まちの未来にそなえる「山本エクスぺリエンス」は今後も展開がとても楽しみです。



(本部長 浦川 直人)

たの まな ほうさいくいず 楽しく学ぶ防災クイズ

今回のお祭りの中で唯一の一般参加型コンテンツ。クイズ形式で楽しみながら、もしもの時のためにどんな備えが必要なのか、子供たちと一緒に考える企画でした。一つは筑後川防災施設「くるめウス」の方と一緒に、誰でも参加出来る事前録画型の防災クイズを配信。指定された各拠点に行くとお菓子をもらえるようにしました。防災にちなんだ答えをもって地域の子供さんたちがたくさん来てくれました。



もう一つが、生配信の小学生チーム対抗戦、大学生が勉強や遊びを通じて居場所づくりをしている「パルクッズくるめ」の方と行いました。私たちに考えられないような、ZOOMを駆使した出題方法で、参加している子供たちも、見ている私たちものめり込むような企画でした。子供たちは防災のことを固く考えず楽しみながら防災に関することの備えを学ぶことが出来たと思います。ポレポレ祭りらしくエンターテインメントとしていろんな方と連携して行うとてもいい機会になりました。

(スタッフ 野上 真紀子)